

## 介護ロボット導入計画書

法人名 ( 遠州鉄道株式会社 )  
 介護事業所名 ( ラクラス西幸ショートステイ )  
 介護保険事業所番号 ( 2372004248 )  
 サービス種別 ( 短期入所生活介護 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	排泄支援
	②介護ロボットの製品名	ラップボン・プリート(S)

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月30日	2台	令和4年12月1日	

## (1) 事業概要及びスケジュール

## 【事業概要】

排泄支援機器「ラップボン・プリート(S)」を導入し、ご利用者の生活環境の向上及び介護職員の負担軽減を図る。

## 【スケジュール】

補助金交付決定後、速やかに導入する。(令和4年12月導入予定)

令和4年12月上旬

購入予定

令和4年12月中

利用開始

## (2) 導入する意義・目的

従来の介護用ポータブルトイレでは、排泄行為後の排泄物の後処理や清掃・消毒などに時間と手間を要しており、また長時間にわたり排泄物の臭いが消えないという問題があり、介護職員および利用者の双方の大きな負担となっています。

本機器を導入することで、排泄行為後の後処理や掃除・消毒の作業が格段に簡略化され、また臭いを抑えることでご利用者の生活環境の向上にもつながるものと考えます。

## (3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

- ・ 職員の職場環境を改善し、定着率の向上を図る

## (4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

- ・ 利用者の生活環境向上 (衛生面)
- ・ 職員の介護負担軽減
- ・ 職員の時間外労働削減
- ・ 職員の定着率向上

(5) 適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
 ※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
 （厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にすること。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組

介護ロボット導入計画書

法人名 ( 社会福祉法人なごや福祉施設協会 )  
 介護事業所名 ( 特別養護老人ホームなごやかハウス南見 )  
 介護保険事業所番号 ( 2370800068 )  
 サービス種別 ( 介護老人福祉施設 )

導入する介護ロボットについて	①介護ロボットの種別	排泄支援
	②介護ロボットの製品名	排泄予測デバイスDFree

導入時期 (予定)	導入台数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和4年12月12日	1台	令和4年12月12日	買取

1) 事業概要及びスケジュール

尿のたまり具合を可視化して、排尿タイミングを事前にお知らせする機器を用いて、排尿をアセスメントすることで、定時の一斉排泄ケアから個別排泄ケアへの転換。  
 12月中旬に導入、1月中旬までに職員研修を完了して、利用計画を立案。2月以降、ご利用者1名に対し、1週間から10日程度の機器使用から排尿パターンを確認、6ヶ月間で対象となる方のアセスメント完了。以降それにしたがって個別排泄ケアを実践。

(2) 導入する意義・目的

現状、定時トイレ誘導していることから、ご利用者の排尿タイミングに合わず、排尿がない場合、不必要にトイレに行く時間的なロスが発生。またすでに尿とりパッドに排尿している場合、消耗品費など経済的な負担が発生している。それらを排泄支援機器を用いて、時間的ロス・経済的負担を軽減、業務効率化に繋げる。

3) 介護ロボットの導入により達成すべき目標 (導入後3年間)

対象となるご利用者の膀胱を可視化して、排尿をアセスメント。定時トイレ誘導・オムツ交換を個別排泄ケアに転換する。  
 機器装着によりアプリに記録されるご利用者ごとの排尿パターンデータから、個別にアセスメントしてトイレ誘導・おむつ交換時間を、業務・人員体制を加味して、一斉から個別に変更。  
 個別の排尿タイミングに合わせたトイレ誘導により、トイレで排尿することから、日中の尿とりパッドの使用量を初年度で前年比5%削減。以降尿とりパッド・紙おむつ使用を適正化。

(4) 介護ロボットの導入により期待される効果等

ご利用者様の排尿タイミングの通知を受取り、トイレで排尿することで自立排せつを促してQOL低下を予防。トイレ誘導時の空振りを低減し、効率良くトイレ誘導することで、業務上の時間的ロスを低減するとともに職員の業務負担を軽減。トイレで排泄できることで、尿とりパッドや紙おむつの使用量が減少、消耗品費低減による経済的な負担軽減、廃棄物低減に繋がる。

(5) 適用を受けようとする補助率

1/2

(6) 補助率の3/4の要件の確認

※補助率3/4の適用を受けようとする場合は、記載すること。  
※「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン（パイロット事業改訂版）」  
（厚生労働省老健局・令和2年3月発行）を参考にする。

①少なくとも見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用し、従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うとともに、利用者のケアの質の維持・向上や職員の休憩時間の確保等の負担軽減に資する取組を行うことを予定している。

②見守りセンサーについて

今年度導入予定		既に導入済み	
見守りセンサーの製品名			

③インカム・スマートフォン等のICT機器について

今年度導入予定		既に導入済み	
ICT機器の製品名			

④介護記録ソフトについて

今年度導入予定		既に導入済み	
介護記録ソフトの製品名			

⑤従前の介護職員等の人員体制

⑥介護ロボット等の導入後に見込む介護職員等の人員体制

⑦見守りセンサー、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用した従前の介護職員等の人員体制の効率化に関する具体的な取組内容

⑧利用者のケアの質や、休憩時間の確保等の職員の負担軽減に資する具体的な取組